

第3期関西観光・文化振興計画の概要（最終案）

I 計画策定の趣旨と期間

令和4（2022）年に策定した「第2期関西観光・文化振興計画」は、コロナ禍において観光・文化が深刻な影響を受けている中で策定したものであるため、社会・経済情勢の変化に起因する新たな課題が生じた場合は、計画期間中であっても見直しを行うこととしていた。

観光・文化分野ともコロナ禍の影響から急速に回復する一方で、外国人旅行者の一部地域への集中といった新たな課題や文化を取り巻く環境の変化が生じていることから、計画の終期を待たずに新しく計画を策定することとした。

当該計画は、令和7（2025）年の「2025年日本国際博覧会」（以下、「大阪・関西万博」という。）の開催を一過性のものとせず、新たなステージに向けた成長の好機と捉え、観光と文化が互いをさらに高め合い、関西が一丸となって取り組む観光振興及び文化振興の戦略を示すものである。

なお、計画期間は、令和7（2025）年4月から令和12（2030）年3月までの5年間とする。

II 関西の観光・文化を取り巻く現状と課題

1 現状とこれまでの主な取組

観光・文化を取り巻く現状

- ・ コロナ禍収束後の訪日客数の急回復
- ・ 文化資源の集積と多様化
- ・ 文化庁の関西移転等を契機とした新たな文化行政の展開
- ・ 関西の交通インフラの充実
- ・ DX推進に関する取組
- ・ 大阪・関西万博に向けての取組

これまでの主な取組

- ・ 広域観光の推進
- ・ 戦略的なプロモーションの展開
- ・ 外国人旅行者等の受入拡大のための観光基盤の整備
- ・ 関西文化の振興と国内外への魅力発信及び連携交流による関西文化の向上
- ・ 関西文化の次世代継承
- ・ 情報発信・連携交流支援・人づくりを支えるプラットフォームの活用
- ・ 産学官連携による関西文化の創造
- ・ 大阪・関西万博に向けた取組

2 主な課題

- （1）外国人旅行者の広域への分散化
- （2）増加する外国人旅行者への受入環境の整備
- （3）文化の次世代への保存・継承と発展
- （4）関西の文化芸術の国際発信力の強化

III 観光・文化振興における関西の将来像

文化と観光で織りなす『創造の関西』

- 持続可能な観光が実現する関西
- 新たな文化やビジネスモデルが創出され続ける関西

IV 将来像実現のための戦略

■戦略1 文化資源等を活用した関西の魅力づくり

関西で育まれてきた多様な有形・無形の文化資源や、豊かな自然、地域に根差した産業などを活かし、関西各地の魅力づくりを進め、観光面での活用を促進する。また、文化芸術の担い手育成や様々な人々の文化芸術活動への参画の促進等にも取り組み、より一層の関西の活性化につなげる。

- | | |
|---------------------------|-------------------|
| (1) 多様な文化資源の振興 | (2) 文化観光や産業観光等の推進 |
| (3) 文化芸術の担い手育成や様々な人々の参画促進 | |

■戦略2 広域周遊観光の更なる推進

関西各地の魅力あふれる観光コンテンツをテーマやストーリーで結んだ広域周遊観光を推進するとともに、周遊を促す環境の整備に取り組む。

- | | |
|----------------------------|-------------|
| (1) 関西の多様な魅力を活かした広域周遊観光の推進 | (2) 受入環境の整備 |
| (3) 大阪・関西万博を契機とした国際交流の深化 | |
| (4) 災害時等の安心安全の確保に向けた取組の推進 | |

■戦略3 文化と経済の好循環及び国際発信の推進

関西がアーティストやクリエイターなど様々な人々にとって魅力的で人材が集積する地域となるため、関西の文化芸術発信の拠点化、文化芸術を活用した新しいビジネスモデルや国際発信の推進などに取り組む。

- | | |
|----------------------|------------------------|
| (1) 関西圏の文化芸術の一大発信拠点化 | (2) 文化芸術を活かした新たなビジネス創出 |
|----------------------|------------------------|

■戦略4 持続可能な観光・文化振興のための推進体制等の強化

持続可能な観光・文化振興の実現に向け、地域と調和した受入環境の整備を図るとともに、推進体制を強化し、関係団体との連携を深める。

- | | |
|--------------------------|--------------------------------|
| (1) 地域と調和した観光の実現のための環境整備 | (2) 観光・文化を担う人材の育成 |
| (3) 観光・文化振興のための連携強化 | (4) 大阪・関西万博に向けて進めてきた取組や情報発信の継続 |

V 計画の目標

1 観光分野の目標

◆関西全体でプラスワンナイトを目指す。

項 目	2023 年	2029 年（目標）
関西での外国人平均泊数	5.5 泊	6.5 泊

※近畿運輸局管内の平均泊数（出展：訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

◆関西全体で1人当たり消費単価の3割アップを目指す。

項 目	2023 年	2029 年（目標）
関西での外国人旅行消費単価	120,594 円	156,772 円

※近畿運輸局管内の旅行消費単価（出展：訪日外国人消費動向調査（観光庁調査））

2 文化分野の目標

◆関西の文化芸術に親しむ機会の拡大を目指す。

項 目	2024 年	2029 年（目標）
ミュージアムぐるっとパス関西	44 館	300 館

※「ミュージアムぐるっとパス関西」は、関西の対象施設（博物館等）の展覧会に有効期間内であれば無料または割引料金で入場できるチケット（入場証）

※令和6（2024）年4月から電子チケットを紙チケットと併用して発行

◆関西在住者の文化芸術に係る幸福度の向上を目指す。

項 目	2024 年	2029 年（目標）
地域幸福度（文化・芸術）	47.1	55.0

※地域幸福度（Well-Being）指標とは、地域の「暮らしやすさ」と住民の「幸福度」を共通の指標で数値化・可視化したものの（偏差値）

※文化・芸術因子の「暮らしている地域は、文化・芸術・芸能が盛んで誇らしい」「将来生まれてくる世代のために、良い環境や文化を残したい」カテゴリーを抽出

（出典：地域幸福度 Well-Being 指標（デジタル庁調査））